

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方策
<p>○ 落ち着いて安心安全に学べ、お勉強大好き、みんなといっしょに勉強するから楽しいと子どもが喜んで登校する学校</p> <p>○ 規範意識をもち、望ましい人間関係をつくる子どもの育成</p> <p>○ 一人ひとりの子どもを大切にし、子ども、保護者、地域の人に信頼され、弥永西の地を誇りに思える教師</p>		家庭学習の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家庭訪問で「家庭学習の手引き」をもとに話題にする。</li> <li>○ 忘れ物強化週間を設定し、自己評価による意識付けを図る。</li> <li>○ 算数を中心として計算力・書く力・話す力を育てる。</li> <li>○ 読書を通して文章の読み取る力を伸ばす。また、辞書を活用し、調べる家庭学習を設定する。</li> </ul>
		基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校内での場に応じたあいさつの仕方や校外でのあいさつについての声かけをする。</li> </ul>
		あいさつの定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 静かに待ち、落ち着いて取り組めるように見守り、指導していく。</li> </ul>
		もくもく掃除の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ やる気アップキャンペーンの時期にはいいが、その後の定着がしにくい。できた時の具体的な姿をイメージさせる言葉かけを継続する。</li> <li>○ 朝タイムを活用し、ソーシャルスキルトレーニングを行う。</li> <li>○ 道徳で相手との関わりに関する題材を位置づけ、指導する。(地域GTの活用等)</li> </ul>
相手が喜ぶ言葉遣い			
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
確かな学力を育成する	毎時間めあてとまとめを明確にするとともに、ふり取りを取り入れた授業を行う。学期末の教師の自己評価90ポイント以上。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師の自己評価90パーセントめあて、まとめを黒板に毎時書き児童が学びを実感できるようにしている。</li> <li>○ 漢字・算数強化週間では各学年で児童の実態に応じた学習プリントを準備し取り組んだ。3年学力テスト上回る4・5・6年同程度となり成果が表れた。</li> <li>○ 読書量の達成をめざし弥西タイムや空き時間を利用して読書に取り組んだ。秋の読書週間等委員会とも連携し読書好きな子どもが増えてきた。</li> <li>○ ドリルの活用は児童も教師も保護者も進める見通しを持ちやすいものとなっている。97%の児童が達成できているが家庭学習が定着していない児童が固定化しており保護にも働きかけている。</li> </ul>	
	◇木曜日の弥西タイムを「計算チャレンジタイム」、月曜日と金曜日の弥西タイムを補充学習と位置づけ、全校一斉に取り組む。漢字・算数強化週間を設ける。◆学期末のテストで平均点90点以上(低学年)、85点以上(中学年)、80点以上(高学年)。		
	読書カードを活用し、読書への意欲づけをする。読書量目標100冊(低)、80冊(中)、50冊(高)		
	漢字・計算ドリルノートを全学年活用し95%の児童がドリルをやり遂げることができる。		
規範意識の向上に取り組む	全校朝会を月1回実施し相手を意識した話の聞き方態度を身につけさせる。教師の自己評価90ポイント以上。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全校朝会では時間を守り、静かに待ち集中して話を聞くことができている。全校朝会での話を学級で振り返り、再確認している。教師の自己評価100%達成。</li> <li>○ 挨拶キャンペーンによる校内での4S挨拶は定着してきている。児童の意識調査(12月)で83%達成。校外での挨拶に課題がみられる。</li> <li>○ 深呼吸ともくもく掃除で落ち着いて掃除を頑張っている姿がみられる。児童の意識調査(12月)で88%達成。</li> <li>○ 学校公開週間では道徳で地域GTを活用(4～6年)</li> </ul>	
	挨拶キャンペーンによる4S挨拶の定着を図り、児童の意識調査(7月と12月3月に実施)定着率80%以上。		
	全校一斉深呼吸後のもくもく掃除を身につけさせる。児童の意識調査定着率80%以上。		
	地域と連携したGTの活用全学年1回以上。		
自尊感情の向上を図る。	異学年交流を年間3回実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 異学年交流は年間を通して計画的に行うことができた。交流時間外でも同じフロア内で上級生が下級生に気遣う姿も見られた。</li> <li>○ 全学年で目指す姿を共通認識して取り組むことができた。相手が喜ぶ言葉遣いの児童意識調査(12月)で87%達成。</li> <li>○ 縦割りのなかよし集会、全校での行事には児童の振り返りをまとめ、廊下に掲示した。全校放送で振り返りのコメントの放送をすることで行事や集会への達成感が高まった。</li> <li>○ 教室や廊下・階段の掲示物には必ず教師のコメントを入れた。学期末の教師の自己評価(12月)は100%達成。</li> </ul>	
	帰りの会「きりりコーナー」や学期末「自分への賞状」に取り組み、トップ言葉相手が喜ぶ言葉遣いの児童意識調査定着率75%以上。		
	学校行事、集会のめあての振り返りを全校で行い、写真感想などをまとめ、掲示しました全校放送をする。		
	ノートや作品等には教師のコメントを入れる。学期末の教師の自己評価85ポイント以上。		
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
<p>○ あいさつがだんだん上手になってきている。学校でやっていることが地域でも生かされていると感じる。</p> <p>○ 地域で集まったときは、上級生が下級生を気遣い、お世話してくれるから助かっている。</p> <p>○ 最近の学校での子ども達の様子がいい。学校で落ち着いている。</p> <p>○ 子ども会で1年間を振り返ったとき、子ども達の感想がしっかり書けていて素晴らしい。</p> <p>○ 保護者の方には、家庭であいさつの習慣をつけようことが大切。</p> <p>○ 自転車の乗り方、横断歩道の渡り方が悪い。地域でも声かけをしていく。</p> <p>○ 小中連携の大切さを感じる。これからも何でも情報共有しながら、連携を深めていきたい。</p> <p>○ 大学に通う学生を見ると、自分のことだけしか考えていない傾向にある。過度な受験勉強や就職に関する問題もあると思う。これからは地域としっかりつながって子どもも学校も地域も一緒に成長していくことが大切だと考える。</p>			